

アラブ首長国連邦（UAE）における緑化と植林

第 1 回：アラブ首長国連邦における植林事業

（1）植林の目的

アラブ首長国連邦における植林事業は、現大統領シェイク・ザイドの「石油によって得られた地下からの利益を土壌に還元する」という方針に則り、石油から得られる利潤の一部を植林事業の拡大に活用されている。植林事業は大きく二つの目的のもとに実施されている。

都市近郊緑化事業：主要道路の中央分離体、都市部の緑地、公園、道路周辺、公共機関周辺などを中心とした住民の住生活環境の改善のための緑化事業。

大規模植林事業：道路の保護や農場周辺の防風、防砂を目的とする植林事業。

UAEの大規模植林事業は主にアブダビ首長国において実施されているが、近年ドバイ首長国でも植林事業を始めている。一方、主にドバイ以北の農業、漁業事業の実施主体である連邦政府農漁業省では植林部門を持っておらず、このことからドバイ首長国以北での大規模な植林事業はほとんど実施されていないのが現状である。しかし、アブダビ首長国以外の各首長国にも園芸部（Gardening Section）があり、都市近郊及び主要道路周辺の緑化を担当している。



大規模植林事業の例



街中の緑化（Al Ain 市内）

（2）植林の実績

アブダビにおける植林は 1969 年にフランスのコンサルタント会社との契約によりアルアインーアブダビ道路沿線で始まった 254ha の緑化より始まり現在に至っている。その後植林面積は急激に増加し、1992 年には東部地区で約 29,200ha となっている。一方、西部地区における植林面積の実績は 1980 年に約 4,000ha であり、その後アブダビ周辺、リワオアシス周辺及び主要道路沿いの植林が活発に行われて、1992 年には約 26,500ha となっている（下のグラフ参照）。また、近年植林を始めたドバイ首長国ではおよそ 3,000ha の植林が行われているといわれている。

